



### 交流の場を

ニューノーマル交流会

No.4

庄原青年会議所（庄原JC）が、「ニューノーマル交流会」と題した異業種交流会を実施しました。

この交流会は、まちづくり、ひとづくりを目指して日々さまざまな活動をしている同会議所の「人と人が直接会って交流を深める機会が減っているコロナ禍の今、庄原の若者同士が交流を深める機会を作りたい」という思いから実施されました。

新型コロナウイルスの感染症対策の徹底と、オンラインでの参加も可能とするなど創意工夫をし、計7回の交流会で延べ94人が参加しました。参加者からは「同世代の仲間から多くの刺激を受けることができた」との声があり、交流会はとても好評でした。



▲交流会の様子

### 次の世代へつなぐ

比和牛供養田植 太鼓打ちの練習・5/6～

No.6

比和中学校の生徒が、4年に1度開催される比和地域の伝統芸能「比和牛供養田植」に向けて、太鼓打ちの練習を行いました。

これまでの練習では、比和町郷土芸能振興会の皆さんが直接生徒へ指導を行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、DVDやCDで指導内容を確認した先生や、これまでに教わったことのある3年生が練習の指導を行いました。

あいにく今回の比和牛供養田植は、感染症の影響により中止となり、生徒は4年に1度の貴重な機会に参加できませんでしたが「地域の伝統芸能を絶やさず次の世代へ引き継いでいくために、これからも練習を続けていきたい」と話しました。



▲太鼓打ちの練習をする生徒

### おいしく育てよう！

トマトの苗植え・6/17

No.3

高野小学校では、全校で野菜栽培に取り組んでいます。梅雨の中休みとなったこの日は、3年生の児童が、校舎裏の学校園にトマトの苗を植えました。

まず教室で、JA庄原の藤谷春樹さんと牧原圭祐さんから、苗を植えてから収穫するまでの、トマトの栽培方法を学んだ後、畑に出て、1本ずつ丁寧に苗を植えました。

児童は「トマトの事がよくわかった」「教わったようにしっかり管理して、おいしいトマトを作りたい」と話しました。講師の藤谷さんは児童に「管理の節目節目でお手伝いします。一緒に頑張りましょう」と声を掛けました。



▲植え方を教わる児童

### 夏の比婆山を楽しもう

比婆山の山野草・6/1～

No.5

比婆山では、夏の山野草が見頃を迎えています。円形の葉に淡紅色の花を複数付けるイワカガミや、日当たりの良い草原や岩場に生息し、黄色の花を付けるダイセンキスミレ、野菊の仲間です。3～4センチの花を付けるミヤマヨメナなど、色とりどりのきれいな花を見ることができます。

また、ササに似た葉を付けるササユリも、10～15センチの大きな淡いピンク色の花を咲かせ、春から夏へと移り変わっていく景色を楽しむことができました。山頂付近には国指定天然記念物のブナ純林も広がっており、その美しさは登山客を惹きつけます。

初夏の比婆山で山野草や原生林などの自然を楽しんでみてはいかがでしょうか。



▲イワカガミ

企画課

### 市立学校適正規模・適正配置基本計画を議題に意見交換

令和3年度第1回庄原市総合教育会議



木山市長のあいさつ

「保護者や地域、児童、生徒の不安を取り除くためには、十分に時間をかけて議論を重ねることが必要だ」「教育委員会として

これに対し、教育委員会からは「保護者や地域、児童、生徒の不安を取り除くためには、十分に時間をかけて議論を重ねることが必要だ」と提案しました。

6月10日、市教育委員会が進める「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画」を議題に、庄原市総合教育会議を開催しました。会議は木山耕三市長と教育委員4人が参加し、公開で行われました。



会議の様子



傍聴者が多数となったため別室で中継を行った

でも、計画の延期も含め議論する必要がある」などの意見が出されました。市教育委員会はこの提案を踏まえ、今後、教育委員会が対応を協議し、同計画の見直しについて検討していきます。



### 秋の収穫を楽しみに

サツマイモの苗植え・5/31

No.2

総領小学校で、1・2年生合同のサツマイモの苗植え体験が行われ、児童11人が参加しました。

最初に先生から苗の植え方の説明を受けた後、グラウンドにある学級園に、スコップを使いながら丁寧に苗を植えていきました。また、高温になったマルチの熱で、苗が焼けて枯れないように、手分けをして苗とマルチの間にわらを敷きました。最後に、じょうろで水を何往復も運び、一生懸命水やりをしていました。

参加した児童は「すぐ抜けないように、しっかり土をかぶせて植えるのが難しかった」「じょうろが重たかったけど、たっぷり水をあげたので大きく育ててほしい」と話しました。



▲丁寧に苗を植える児童

### つながりを絶やさない

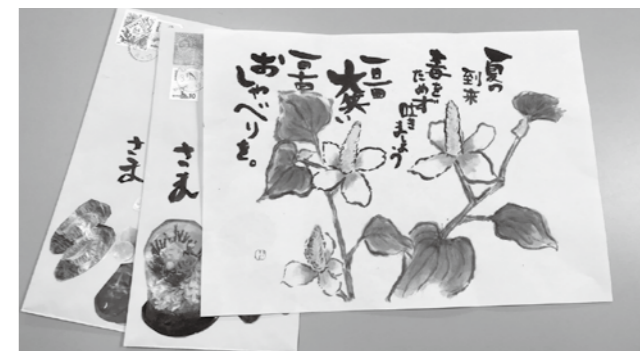
コロナ禍での高齢者サロンの取り組み

No.1

東城自治振興区の東町自治会で実施されている、高齢者の集まり場「100円サロン」では、新型コロナウイルス感染症の影響で集まることができない参加者に、絵手紙や旬の野菜料理レシピなどを送っています。

この取り組みは、集まることが難しい中でも、人とのつながりを大切にしたいとの思いから始まりました。絵手紙の一つには「夏の到来 毒をためず吐きましょう 一日一回大笑い 一日十回おしゃべりを。」と書かれています。人との関わりを持つことは、心を豊かにし、健康を維持するために大切なことです。

このように、コロナ禍でもつながりを途切れさせない、すてきな取り組みが行われています。



▲送られた絵手紙